

# プラン段階で耐震・省エネ性能見える化

## エヌ・シー・エヌ

### 全棟ウォールスタット対応可能に

エヌ・シー・エヌ(東京都)の田鎖郁男社長は、SE構法を採用する顧客に、契約前のプラン段階で簡易耐震シミュレーションと省エネルギーレポートを提出する提案をしたことを明らかにした。

同社は、主にSE構

法の構造計算と躯体供給などを行う会社で、2021年3月期の上期業績は売上高32億1100万円(前年同期比2.9%減)、経常利益1億5000万円(同4.3%増)、当期純利益1億5000万円(同8.2%増)。

新型コロナウイルスの影響で5、6月に住宅受注が減少したが、7月以降盛り返し、住宅分野の上期売上高は2億7900万円(同0.9%減)だった。

その一方、非住宅案件は現場の3密対策などで工期が伸び、売上高は2億6900万円(同23.4%減)にと

どまった。

田鎖社長は「7月以降の回復傾向は、大手ハウスメーカーより当社の登録施工店の方が強い」と話した。

重量木骨プレミアムパートナー会の会員工務店は、地域で中高額層の住宅受注に強く、新たに開設したデジタル住宅展示場では工務店が自社の住宅をYouTube動画を使って紹介する。

こうした取り組みに加え、契約前に簡易耐震診断と省エネルギーレポートを提出する。

簡易耐震診断は、ウォールスタットを使った倒壊解析で、SE構法の優位性を確認しても

55社(同36社増)を見込んでいる。在来工法と併売している工務店もあり、すべてでウォールスタットによるプラン段階での耐震シミュレーションをすることで営業強化に結び付けていく方針だ。